

1 議 事 日 程（第3日）

（平成22年第4回有田川町議会定例会）

平成22年12月16日

午前9時30分開議

於 議 場

日程第1 一般質問

日程第2 議案第147号 有田川町一般会計補正予算（第7号）

2 出席議員は次のとおりである（18名）

1 番	増 谷 憲	2 番	堀 江 眞智子
3 番	橋 爪 弘 典	4 番	東 武 史
5 番	岡 省 吾	6 番	前 勢 利 夫
7 番	湊 正 剛	8 番	佐々木 裕 哲
9 番	森 本 明	10番	殿 井 堯
11番	坂 上 東洋士	12番	楠 部 重 計
13番	新 家 弘	14番	西 弘 義
15番	中 山 進	16番	竹 本 和 泰
17番	亀 井 次 男	18番	森 谷 信 哉

3 欠席議員は次のとおりである（なし）

4 遅刻議員は次のとおりである（なし）

5 会議録署名議員

7 番	湊 正 剛	13番	新 家 弘
-----	-------	-----	-------

6 地方自治法第121条により説明のため出席した者の氏名（21名）

町 長	中 山 正 隆	副 町 長	山 崎 博 司
清 水 行 政 局 長	保 田 永 一 郎	会 計 課 長	西 尾 幸 治
総 務 課 長	山 田 清 美	企 画 財 政 課 長	武 内 宣 夫
総 合 業 務 課 長	高 垣 忠 由	消 防 課 長	前 田 英 幸
福 祉 課 長	大 方 肇	環 境 衛 生 課 長	河 島 一 昭
住 民 課 長	赤 井 康 彦	税 務 課 長	星 田 仁 志
建 設 課 長	東 信 行	産 業 課 長	福 原 茂 記
地 籍 調 査 課 長	上 岡 重 和	水 道 課 長	前 守
下 水 道 課 長	東 敏 雄	教 育 委 員 長	早 田 智 代
教 育 課 長	楠 木 茂	学 校 教 育 課 長	坂 上 泰 司
社 会 教 育 課 長	三 角 治		

7 職務のために議場に出席した事務局職員の職氏名（2名）

事 務 局 長	山 下 時 克	書 記	池 尻 ひろ子
---------	---------	-----	---------

8 議事の経過

開議 9時30分

○議長（前勢利夫）

おはようございます。

ただいまの出席議員は18人であります。

定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

本日も、一般質問のライブ中継に当たり、機器の操作のため担当職員が議場に出席しております。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

また、説明員は、町長ほか20人であります。

……………日程第1 一般質問……………

○議長（前勢利夫）

日程第1、一般質問を行います。

昨日に引き続き、順次一般質問を許可します。

……………通告順7番 1番（増谷 憲）……………

○議長（前勢利夫）

1番、増谷憲君の一般質問を許可します。

1番、増谷憲君。

○1番（増谷 憲）

皆さん、おはようございます。

今、議長のお許しを得ましたので、一般質問をさせていただきます。

私は今回、3つの問題で通告を出させていただいております。順次行いますが、まず第1の質問として、平成23年度の予算編成と、私どもがこの間、取り上げてきた要求についての実現をめぐる問題であります。

平成23年度予算編成をしていく時期になってまいりましたが、この間、さまざまな人件費の削減や施設の建設などが行われ、経常経費のあり方が大きく問われてきています。そして、今後の状況を見ていきますと、吉備中学校校舎と関連施設の建設、消防署、金屋庁舎、あさぎり・温泉関連施設など、まだ大きな事業が幾つか残っております。それらが、ここ3年間で集中していく最初の年になるのが平成23年度であります。今後、町民負担の増大やサービスの低下、人件費抑制で士気能力の低下などを招かないか心配するところではありますが、平成23年度の予算編成方針とその内容、具体策はどうか、特に新規事業についてはどのようなになっているのか、まずお聞きしたいと思います。

次に、以下2点目から8点目までは、この間、要求してきた問題でありまして、再度、来年度予算編成に当たって盛り込んでいただくことを求めて質問したいわけですが、まず、2点目の子ども医療費の無料化の問題であります。ことしの9月から小学校6年生まで対象が広がって実施され、子どもを持つ保護者からはたいへ

ん喜ばれています。1カ月の実績を見ましても、たいへんな額ではありません。来年度から中学校3年生まで支給対象を広げて、子育て支援の充実を図られたいと思いましたがいかがでしょうか。

3点目として、国保税を1世帯当たり1万円引き下げる問題と、一部負担金の制度化の具体化はその後どうなっているのでしょうか、御説明いただきたいと思います。

4点目として、死亡原因の4番目に高いのが肺炎であります。ワクチンを接種すればかかりにくくなり、医療費の削減に大きな効果をもたらします。それで近年、助成する自治体がふえています。成人用肺炎球菌ワクチンは、全国で327自治体、和歌山県では白浜町、すさみ町、北山村で実施されています。65歳以上が107自治体、75歳以上が85自治体、70歳以上が77自治体、中には70歳と限定した自治体が2つあります。高齢者に1回接種すれば大体間に合うので、一般的な接種費用8,000円前後の半額を助成してはどうか、そして試行的に70歳到達者を限定にしてやれば年間300万円以内でおさまるのではないかと推察いたしますがいかがでしょうか。

第5点目として、昨日も同僚議員からも取り上げられておりましたが、各区から要望の強い町道の維持修繕や道路改良の問題であります。町内は地域が広く道路延長も長いため、各区からの要望にこたえられるのは優先順位をつけてもらって、その第1順位の箇所ぐらいであります。昨年度は、たまたま国の緊急経済対策で一定の額をつけましたが、毎年各区からの要望にできるだけこたえられるよう予算を増額するべきではないでしょうか。

第6点目として、総合的な公共交通策定に向けて取り組みを進められておりますが、アンケート調査費や懇談会、シンポジウムなどのイベントの開催、試行乗車や全体の計画が進んでの運行経費の予算化はどのように見込まれるのか伺いたいと思います。

第7点目として、生活保護制度や生活福祉資金制度があっても、申請の対象にならなかったり、生活保護の申請をしている間の生活資金がなくて困っている方など出てまいります。まさに制度の谷間に入る方も出てくるわけであります。こういう方々の救済のために、町が一時のつなぎ資金の制度を創設してはどうでしょうか。

第8点目として、過疎債がソフト事業にも使えるようになりました。この12月の補正予算においても、通学対策費や教育奨励金を一般財源から過疎債に振り分けています。80%までみてくれるようであります。有田川町では6事業で1億2,940万円計画して県へ出されたとお聞きしています。これに過疎地域の町道や畑の草刈りの事業化をして、地域の負担軽減をされてはどうか。

第9点目は、合併後の平成18年度から行政改革大綱をつくり、集中改革プランで効率化と経費の削減、民間委託や人件費の削減、町民負担などを進めてまいりましたが、来年度において、集中改革プランに基づいて実施される内容はどのようなものと考えておられるのか示していただきたいと思います。

これが第1問であります。

次に、2つ目の問題として、有害対策について伺います。

昨日も何人かの同僚議員が質問されておりましたが、有害鳥獣の農作物等への影響は本当に後を絶たず、毎年被害が大きくなっています。それにあわせて捕獲数もふえてきているのが現状であります。

さきの9月議会でも、私は里山や畑の管理体制、見回り隊の設置、対策協議会の問題、有害鳥獣に関する助成制度をわかりやすく解説したものをつくっての周知徹底を求めました。ことしは特にイノシシの捕獲が2年前の3.1倍、昨年の1.8倍にもなっていることであります。この間、有害対策費に使ったお金は、平成19年度で約1,018万円、平成20年度で1,104万円、平成21年度で989万円、そして、ことしの12月補正分を入れて既に2,018万円となっています。これだけ捕獲がふえているのには、猟友会や農家の方々、関係者の大きな努力の中での成果であると思います。

ところが、これだけ捕獲数がふえてきているのに、その一方で有害鳥獣捕獲のための環境が厳しくなっています。猟友会の高齢化と後継者不足の問題、銃やわなの免許取得や更新、狩猟登録等の経費が結構かかるという問題があると思います。特に今、景気が悪い中で農業収入が減り、自衛のための手段としてやらなければならない中で免許取得や更新、狩猟登録の経費については、農家の方々が新規にわなで捕獲をする場合の取得に県と町が補助する1回限りの補助制度がありますが、それ以外ないのが現状であります。後継者をつくったり扶助しやすい環境づくりが急務になっています。お隣の広川町では、狩猟登録の費用への支援を始めました。また、みなべ町や印南町では、銃免許を取得される方に、その手続費用への支援を始めています。そこで、経費負担軽減のために、せめてまず免許の取得や更新、狩猟登録講習料の経費について助成する制度をつくって、有害鳥獣捕獲のための環境を整備する必要があると思いますがいかがでしょうか。

次に、山間地域を回っていると、畑だけではなく墓地においても被害が出ているということをお聞きしました。墓に立てているびしゃこやお供え物が食べられたり、墓石が倒されたり、墓地を支えている山肌がイノシシに削られ、墓の倒壊の心配も出てきて、自衛手段を講じなければならぬくらいになっています。現に清水の三瀬川地区では、昨日、町長に写真を渡して参考にしていただいたのですが、各戸から費用を出し合って、墓地を囲う対策を講じるどころまで出てきています。地域の方々はあきらめも半分あり、被害があってもなかなか言えないのが現状で、今後このように対策を講じなければならぬ地域がふえてくると思います。墓地の性格からありますが、地域で管理している墓地については特別の支援策をつくって、周りを囲う費用の一部を助成されるよう支援を求めたいがいかがでしょうか。

これが2つ目の問題であります。

最後の質問に移ります。

来年度の卒業見込みの有田地域における3高校の就職支援の問題についてであります。来春の卒業見込みの高校生の就職内定率は、昨年より少し改善されていますが、マスコミ関係も依然として厳しい状況にあると報道しています。平成22年の春は多くの卒業生を泣かせる春になってしまいました。社会人としての第一歩が失業者という社会でいいのかと疑問を投げかけます。新卒採用数の確保は、企業経営の持続性にとっても不可欠であります。「かつての就職氷河期では、企業は新規採用を抑制し、その結果、中堅層の人材の空洞化を生んだ。長期的な企業経営のためには、将来を見据え、一定数の新卒採用を行うことが必要だ」、日本経団連元会長がこのような発言をしています。そこでまず伺いますが、湯浅ハローワーク管内、有田3高校の就職内定状況はどのようなになっているのでしょうか。

次に、箕島高校の進路指導部に、緊急雇用対策の一環で就職支援教員を配置しています。県下で3人配置されているうちの1人ですが、有田と日高地方を担当されています。この方は、年間約200件の企業訪問を行っているそうであります。また、有田中央高校には、金屋出身で元教員の相談員を1人配置しております。週に2～3日相談に応じる活動をされています。こういう厳しい状況下の中であって、ハローワークはもちろん、こういう支援教員や相談員との連携を密にして協議をし、一層に対応していく姿勢が大事ではないでしょうか。協議をされたことがあるのかどうか、ないとすれば今後の姿勢はどうか伺いたいと思います。

3つ目に、町の支援策についてどうか。その後の企業への働きかけはどのようなになっていますか。

第4点目として、今後も就職状況は改善される見通しもない中で、恒常的な支援策が必要ではないかと思いますがいかがでしょうか。

第5点目として、民間企業への働きかけはもちろんです。安定して地元で就職できて、若者定住対策の大きな柱にもなる正規雇用の枠を広げる問題であります。当面、消防職員がまだ64人の条例定数からいって2人足らず、消防力の基準からいっても低く、今後も増員計画が必要だと思いますが、高校生の採用枠を広げられる対策を求めて、第1回目の質問といたします。

○議長（前勢利夫）

町長、中山正隆君。

○町長（中山正隆）

おはようございます。

増谷議員さんの質問にお答えをさせていただきたいと思います。

平成23年度の予算編成についてのお尋ねであります。平成23年度当初予算編成に当たっては、引き続き予断をゆるさない財政状況が続いている中、各課長には一層の経費削減をお願いしているところでありますけれども、行政のサービスの低下を防

ぐため、可能な限りの予算配分を考えております。特に平成23年度からは、吉備中学校改築、消防庁舎移築、金屋庁舎改築、あさぎり及び周辺整備などの大型事業が集中することから、相当額の財源確保が必要な状態となっており、そういった不足財源については、財政調整基金やその他の目的基金により手だてをする予定となっております。こういった状況から、来年度予算では予定外の大型公共事業については抑制しなければなりません、住民生活に密着した各種行政サービスを極力維持するための財源については、確保していきたいと思っております。来年予定している大型公共事業、吉備中学校改築に12億3,000万円、それから消防署移築に2億5,100万円、金屋庁舎改築に5億8,000万円、あさぎり周辺及び施設整備に2億7,000万円、給食センター改修に4,800万円、金屋地区排水路整備に1億4,500万円、小川地区農道整備に1億3,900万円を予定しております。

次に、子どもの医療費無料化制度を中学校3年まで拡大をとということであります。子どもの医療費の無料化につきましては、今年度9月から小学校6年生まで無料化ということで始めさせていただきました。実績として、現時点では9月分しか出ていませんけれども、9月分として診療件数で952件、それから金額で197万円の支出となっています。御質問の子ども医療費の無料化制度を中学生まで拡大をとということでもありますけれども、ことしの9月に小学校まで実施したところでありますし、近隣市町村等の動向を見てみたいと思っております。

それから次に、国民健康保険1万円引き下げと一部負担金制度というお尋ねでありますけれども、このことにつきましては、前の議会での一般質問でも答弁したとおり、平成22年度の国保会計の状況を見ながら検討をしたいと考えています。基金につきましては、平成22年度の基金繰入金は6,400万円となっております。平成23年度予算においても、取り崩す必要があるのではないかとみています。また、後期高齢者医療制度が平成24年度から廃止となり、新たな保険制度が平成25年度から始まることとなっております。これらも見きわめながら慎重を期してやっていかなければならないと思っております。

それから、一部負担金制度化はとの御質問でありますけれども。一部負担金の減免及び徴収猶予の制度につきましては、生活が一時的に苦しく医療費の支払いが困難となった世帯に対し、医療機関での窓口負担が軽減される制度であります。この制度化につきましては、国の基準に沿う形で要綱を策定中であります。今月中には実施できる予定となっております。

それから、成人用肺炎球菌ワクチンの助成をという御質問であります。成人用肺炎球菌ワクチンの助成、これは高齢者の肺炎予防に有効と聞いております。初回接種から、5年間過ぎて2回目の接種をすれば、特に有効とも聞いております。1回の接種費用は8,000円ぐらいで、一部助成している市町村もありますけれども、12月補正で小児用肺炎球菌ワクチンについては補正をしています。現在のところ、成人用

肺炎球菌ワクチンについては、２３年度の計上は予定しておりませんが、これも県下の状況を見ながら、鋭意検討していきたいと思っております。

それから、町道修繕費や改良費の増額をということでもあります。町道の維持修繕費については、殿井議員にもお答えしたところですが、町道の維持修繕費については、１８年に合併してから、１８、１９、２０年度は約５，０００万円ずつ、２１年度は１億７，８００万円、２２年度は８，５００万円、５年間で約４億２，０００万円の工事をしております。各区の要望も多い中で、緊急に施工しなければならないところから工事を行っております。町道維持修繕費は町の単費ですが、できるだけ要望にこたえていく体制をつくっていききたいと思っております。町道の改良工事については、各区からの要望に基づいて事業計画し施工しております。１事業当たりの工事費が大きいものについては、国、県の補助事業や有利な起債事業で行っております。ただ、要望があっても、地権者の測量同意や用地の同意が得られないものがたくさん見受けられます。地元の同意なくしてできませんので、了解を得て要望をしていただきたいと思います。

それから、総合的な公共交通の策定の支援策というお尋ねでありますけれども。総合的な公共交通体系作成のための支援策、現在、和歌山大学地域貢献機能の充実を図るためのプロジェクト事業ということで取り組んでいただいております。町内の交通体系の効率化に向けて、このチームで取り組んでいただいております。今後においては、コミュニティバス、スクールバス、路線バス等の経費を含めた運行状況や地域住民の移動手段についてのアンケート調査を実施いたしますが、経費等につきましては、来年１２月まで研究費として総額１，５００万円の予算を、これは大学で充ててくれます。１，５００万円の予算を大学が立てていただいておりますので、その中から支出をしていただくことになっております。

それから、生活保護や生活福祉資金の活用もできない生活困窮者のつなぎ資金の創設をということでもありますけれども。生活保護や生活福祉資金の活用もできないとの質問でありますけれども、現在、生活保護費、及び和歌山県社会福祉協議会では、低所得者、障害者、または高齢者世帯に対して安定して生活が送れることを目的として、生活福祉資金貸付事業を実施しております。また、町社会福祉協議会においても１０万円を限度につなぎ資金の融資制度があつて、現在１４人の方が御利用いただいております。今後も現状の制度の中で柔軟に対応をしていく予定で、新しいつなぎ資金の創設については、現在のところ考えておりません。

それから、過疎債のソフト事業化により、過疎地域の町道や畑の草刈り支援策をという御質問であります。有田川町過疎地域自立支援計画による特別事業分につきましては、平成２２年度から２７年度までのソフト事業分として、１億２，９４０万円を６年間実施する計画を国へ提出しております。町道の草刈りについては、事業としては可能と思われますけれども、現在のところ割り当てられた事業費全額を計上してお

りますので、追加変更は難しいと考えております。過疎地域というのは本当にお年寄りの方が多い中で、町道の草刈り、これもよくわかっています。できるだけ地元の区へお願いしているわけなんですけれども、主要道路については緊急雇用で毎年5～6人雇用しておりますので、その方々に現在も草刈りをさせていただいております。また、清水地域では、作業員により主要な町道や林道の草刈り、側溝の土砂上げを行っております。過疎地域だけではないですが、これからも高齢化が進む中で地元の草刈り等が困難になってきます。できるだけ緊急雇用等の作業員で対応をしていきたいと考えています。

それから、集中改革プランの内容で盛り込むものという御質問でありますけれども、引き続き持続可能な予算構造への転換を目標とするため、一般財源枠配分方式を採用させていただきます。それから、特に特別会計については、一般会計の非常に厳しい財政状況を踏まえ、独立採算の原則に立ち、徹底した経営努力による経費の節減、合理化や収納率の向上に努めること、基準外繰り入れのある会計については厳しく査定するものである。

それから、人件費の削減、これは町長等特別職の給与カット、これも行っております。それから、時間外の勤務手当の削減、これは、できるだけ代替で休んでいただくようにしていきたいと思っています。

それから、職員定数の適正化、これは3割補充の実施もやりたいと思います。さらには、細かくは昨年度に引き続き物件費のうち、特に消耗品費や光熱水費の削減、また食料費の原則廃止、出張費の削減、真に住民が必要とする事業を優先し、職員の英知を結集し、最小の経費で最大の効果を上げるように取り組んでいきます。

それから、狩猟免許取得への軽減負担ということでお尋ねでありますけれども。wana免許の取得費用については、農家の方を対象として県から2分の1、町から4分の1の補助がありまして、取得にかかる費用は講習1万円、受験費用5,200円必要です。うち4分の3の補助がありますので、自己負担は3,800円となります。銃の免許については、今のところ補助はありません。猟友会員も高齢化の中で非常に減ってきており、銃を扱う若い世代へのニーズも高まっているのですけれども、町単独での補助については、銃という特殊性も考え、今後の検討課題とさせていただきたいと思います。

それから、有害対策補助金でお墓への対策ができる支援策をというお尋ねであります。先日、増谷議員から写真を見せていただきました。有田川町内には宗教法人で運営されていない、いわゆるみなし墓地、これ1,200カ所ぐらいあります。今回の御質問の墓地もそのような墓地であると考えます。山間部になると、そういった墓地の管理も大変なものがあると思います。御指摘のありました支援策については、担当の窓口も含めて少し検討させていただいて、御要望に沿えるようにしていきたいと思っています。

次に、3 高校の就職支援についてであります。

まず、就職の内定率でありますけれども、就職内定状況につき各高校に問い合わせました。有田中央高校については、就職希望者 77 名中 56 名が内定済み、箕島高校については、95 名中 80 名が内定済み、耐久高校については、就職希望者が十数名いる中で、未定が 3 名ということです。内定率としては約 80 % で、これは昨年とほぼ同じかなと。全国的には、今のところ報道でもあったように、約 50 % の内定しかできていないという報道がありました。それから就職支援専門員については、有田中央高校に県費で配置されておりますし、箕島高校ではジョブサポートティーチャーという名称で国費で配置されていると聞いております。耐久高校には配置されていません。主に生徒からの就職相談に応じ、就職先の開拓等に当たっているようですが、県立高校に配置された学校職員でありますので、今のところこうした方との協議は持っておりません。今後、必要があれば協議、協力をしていきたいと思っています。

それから、企業への働きかけについてでありますけれども、誘致企業を中心に機会あるごとに地元からの雇用をお願いしております。担当課で毎年企業回りをしますので、同様のお願いはしております。お聞きしたところ、誘致企業 10 社での雇用者数約 900 人のうち 90 % 以上は有田地方からの雇用ということですので、引き続き雇用の確保をお願いしていきたいと考えています。

また、就職に当たっての支援策ということですが、就職というのは個々の問題でありますので、いろんなケースを考える中、可能なものは取り組ませていただきますけれども、個人施策としての支援は非常に難しいと考えております。行政としては、雇用を創出するまちづくりに取り組むことが責務と考えますので、地場産業である農林業はもとより、できる限り雇用を生む事業を推進したいと考えております。

それから、消防職員の枠を広げて対策をとということでもあります。現在、有田川の消防の定数条例では 64 名となっていて、実員は今 62 人でいろんな業務に当たっております。今後、東南海・南海地震の発生も危惧される中、また当町に通常起こり得る災害等を考慮して、条例定数の増員を考えなければならないと思っています。また、来年度中に試験をしまして、再来年度、また 2 名ふやす予定にしています。ただ、あと 4 年か 5 年すれば、一番最初入った人がたくさんやめる時期が来て、消防職員を雇っても 1 年間は仕事につけません。消防学校へ行ったり、またある人は救急車に乗る免許を取らせたりしなければならないので、1 年間は業務につけませんので、そういうことを考えれば早くこの条例改正を行って、定員をもうちょっとふやすような条例改正を考えていきたいと思います。

以上です。

(「補足答弁は、課長からはないですね」と増谷議員、呼ぶ)

○議長(前勢利夫)

1 番、増谷君の再質問を許可いたします。

○ 1 番（増谷 憲）

2 回目の質問をさせていただきます。

まず最初に、来年度の予算編成方針とのかかわりでお尋ねいたしますが、いろいろ御説明、答弁いただいたわけなんですけども。来年度から、さっき言いました3年間ぐらいの間に、今答弁いただいた大型事業が続くと。そういう中で、来年度以降の財政がどうなっていくかということも見ていかなければならないんですが、その中で私どもが要求したこと等を含めて、ことしは税収が一定ふえた分もあって、地方交付税が余ってきたと。ことしと来年度に向けて、国は新たに配分しようということ言われています。通常、61億全部が普通交付税で有田川町へ入っていると。来年度の見込みを考えていきますと、担当課にお聞きしたら、何もなければふえた分が来年度に、通常の分と違ってさらに4億円ぐらい交付税がふえる計算になるということもお聞きしているわけですが。しかし、ことしの国勢調査の結果で、人口減となって交付税の算定基礎の計算の中でどういうふうに反映されるかということもあって、来年度の予算編成に当たっては交付税の増額分を1億円ぐらいしかようみないということもお聞きしたわけですが、担当課から。普通だったら、4億全部来ると思うのですが、こういう財源を見込みながら、私は、3年間集中する事業以外にも回せる分があるというふうに思うわけですが。

それから、特別交付税が6%と総額を定めているわけですが、これは国も方針を変えて4%に引き下げると言っているんですね。配分額を算定する項目が減らされて、そのかわり交付税総額の94%を占める普通交付税の割合を引き上げて、交付税の総額に影響が出ないようにするということも言っています。さらにこの12月に普通交付税の交付額の変更決定がされて、有田川町にはさらに、12月7日の決定だったと思うんですが、1億5,687万円余りが配分されることになる。これは普通で言えば3月末までに使わないといけないお金になるんですが、もう今から考えても、そう簡単になるということになると思うんですが。だから基金を積み立てるかとかそういうことを考えられていると思うんですけども、こういう財源も一つは使えて、例えば雇用対策に使うとか、月15万円出して10人雇用して、5年間分を雇って9,000万円で済むし、あと残りは町道の維持修繕に回しているというふうにも使えるということで、ことしと来年度に向けて一定の財源があるということをまず申し上げておきたいと思います。

その上に立って、2つ目、子ども医療費の問題であります。中学校3年生まで無料化する問題で、先ほど町長の方から9月の実績を報告いただきました。これで見ますと、1件当たり2,070円ということで、前にお聞きした担当課の試算では、小学校で約3,500万円、これは1人平均2万3,600円弱です。中学校分では、1人平均1万2,000円と計算して年間約1,000万円、合わせて4,500万円の計算をして予算を組めると。実際はもっと少なくて済むと思いますが、私どもこ

の前、有志議員で恵那市とか飯田市へ視察に行きました。そのときに恵那市の子ども医療費、中学校3年生までここは無料化しておりますが、ここの実績を見ましても、1人平均約年間2万5,000円足らず、1件当たり1,860円になっています。だから、こういうことから大体予測がつくし、そんなに要らない。また、湯浅町では、先ほど町長は近隣町の動向を見たいということがあるならば、湯浅町はこの12月議会で、町長が来年度から中学校3年生まで医療費を無料化すると発表したわけです。だからこれは足並みそろえて、近隣町のことを考えてやるべきではないかと思いますので、ぜひ来年度から予算化を求めたいと思います。

それから、国保税の1万円負担の引き下げを求めておきたいわけですが、一部負担金の基準について、先ほど町長は国の基準と答弁されました。この国の基準というのは、生活保護基準ということになります。生活保護基準の1倍、つまり生活保護基準額以下の設定ということになりますから、そうなりますとなかなか適用するとなったら実際は難しい、ほとんどが適用されないのではないかな。なぜかと言いますと、広川町ではもう既に実施されておりますけれども、広川町は国の基準よりもちょっといいぐらいになっていると思うんですが、それでも実績は1件しかありませんでした。ですから、結局制度をつくっていただいても、これではなかなか利用されずに、病気にかかってもかかれない方が出てくると思いますので、これは今後ぜひ生活保護基準の問題については考えていただきたいし、そして一部負担金の取り扱いについての国から来た文書の中には、「生活困難の認定については、地域の特殊事情、被保険者の生活実態等に即して適正に実施されるよう」ということをつけ加えておりますので、これはぜひ担当課はこういうことを念頭に置いて取り組まれないかと思います。

それから、成人用の肺炎球菌ワクチン制度については、75歳以上とか何歳以上と設定したらかなり予算が要りますので、私が先ほど言いました70歳到達者に実施していただくとか、そういう形でぜひ検討していただきたいと思います。このことが、結果的には国保財政にも大きな経費削減の効果につながってくるのは間違いのないと思いますので、その点よろしくをお願いします。

それから、5つ目の町道維持修繕等の問題であります。町長も前向きに答弁されておりますけれども。実際、平成20年度の決算状況で見ますと、要望件数に対しての改修率は17%になっています。国の緊急経済対策でやった年の20年度は、予算化を3倍にしましたが、それでも要望件数に対しての改修率は35%と。だから、せめて旧清水町の場合をとってみますと、地域審議会があった当時の議論の中にも、毎回出されたのはこの維持修繕の改修の問題でありましたが、旧清水町のときには1億円を組んでいたのが、今はもう3分の1、4分の1になっていると。せめて半分ぐらいには復活してほしいということが毎回のように出されていまして、できるだけこの要望にこたえるよう、再度求めておきたいと思います。

それから、7番目の生活のつなぎ資金の問題であります。私が先ほど言ったよう

に、社協の事業や国の事業ではなかなか該当しない人が出てくるので私は制度として求めたのでぜひ、これは実体験の中からこういう要望が出てきましたので、再度検討していただきたいと思います。いかがでしょうか。

それから、第1問の8点目の過疎債のソフト事業の中への問題であります。この事業は正式に締め切るのは来年の1月5日だというふうに聞いておりまして、まだ町の方でも調整をしているところもあるんだというふうに県の方でお聞きしましたが、そうであるならばぜひとも、しつこいようですが考えていただきたいのと、もしどうしてもだめであるならば、別の事業でぜひ検討を求めたいと思います。

これが第1問です。

それから、2つ目の有害対策の問題であります。先ほど2点目のみなし墓地の問題が1,200件ということで、本当に私も聞いてびっくりしたわけですが、こういうところはぜひ前向きに担当する課を決めていただいて、検討を求めておきたいと思っています。狩猟免許等に係る費用についての問題であるんですが、再度私、説明をさせていただきたいと思うのですが、もし説明の中でダブっていたら申しわけありませんけれども。仮に清水地区の初心者が銃の免許を申請するとなるとどうなるか、幾らぐらい要るかということなんです。これで言いますと、狩猟税が1万6,500円、県の手数料が1,800円、大日本と県の猟友会費が5,800円、猟友会有田支部会費が6,000円、そしてハンター保険のAで8,000円、それで清水分会費が2,000円、合計で4万100円になります。これ以外にも、初心者の講習料1万円、狩猟免許手数料5,200円、健康診断書として5,000円などかかって、総合計すると7万円ぐらいになってくると。これは大変な額だなと。さらに、初心者は銃も買わないといけないので、鉄砲の値段が幾らかかるのかわかりませんが、25万円前後とかという話も聞いていますし、だから相当な額になってきますし、また猟犬の飼育の費用とか、猟犬がシシなどに襲われてけがをすると治療費もかかってきます。こういう費用も各支部の分会費をみんなで負担し合っているということも聞いています。

また一方、わなの場合はどうなるか。経験者でわなの免許を取得する、金屋地区の方では、狩猟税8,200円、県手数料1,800円、大日本と県猟友会費4,000円、猟友会では支部会費6,000円、わな保険1,100円、金屋文化費1,000円、合計2万2,100円。これ以外に狩猟免許手数料で5,200円、経験者の講習手数料は5,000円となってきます。県の狩猟税や県手数料の減額、保険料への補助をするようにされてはいいのかなということです。こうして負担を減らすことで銃やわなを使ってとる方の負担を減らして、有害鳥獣駆除の貢献になっていくのではないかなというふうに思いますがいかがでしょうか。

12月の県議会で、松坂議員の質問に答えて、知事は、「銃の所有者に対する新たな負担が発生していることは認識している」と。「被害が減少しない中、鳥獣被害対

策にこれまで以上に力を入れていただく必要があると考えている。市町村や猟友会の意見を聞きながら検討したい」として、「費用負担の問題も検討していかなければならない」と答弁されています。ですから、町長も町村会長として県への働きかけも大事ではないかというふうに思いますがいかがでしょうか。

それから、就職支援の問題なんですけども、先ほど内定率を説明いただきました。高校に配置されている支援教員の問題なんですけども、私、話をさせていただきました。行政とのかかわりは向こうもないというふうに言うておりまして、ぜひその情報の共有とか、それからお互いに意見交換をして進めていきたいとか、行政の中での短期の雇用がないのかどうかとか、そういうことも言うておられます。ぜひ協力して意見交換をしながら取り組んでいただきたいと思います。

それから、きのうお渡しした雇用に関する国の緊急対策、この制度についてどう認識されているのか、町長に答えていただくのか、担当課なのか、その辺をまず。こういうことで取り組んでおられるのかどうか、お聞かせいただきたいと思います。

それから、消防職員の採用については、枠を外して定員増をしていきたいということとでありますので、ぜひその年次計画を立てて職員をふやしてほしいし、定数外でも採用して、後に条例定数を変えることもできますので、ぜひ高校関係者から採用することを特に重視していただきたいと思います。箕島高校では、就職希望で公務関係で一番多かったのは消防士だということをお聞きしておりますので、ぜひそういう点で求めておきたいと思いますがいかがでしょうか。

○議長（前勢利夫）

町長、中山正隆君。

○町長（中山正隆）

来年度の地方交付税がふえるという話はある程度聞いてますけれども、これもまだ定かでないということで。ことしも実は最終決算をすれば、かなりということではないけれども上がってきます。これは将来のために、また２億円ぐらい基金で積みたいなという考えを持っています。あと１０年すれば、また今の合併の特別算定というのがなくなりますし、あと１０年間で必要経費１２億円ぐらい減らさないとやっていけないという見通しになっていきますので、今からでもその対応をこれからしっかりとしていかなければならないと思っています。

それから、中学校までの医療費の件ですけれども、これは先ほども申し上げたように、とにかくことしの９月から小学生を引き上げたばかりでありますので、その動向を見て、９月がこのぐらいで、１年間というところのぐらい要るかまだ定かな数字は出てませんので、それを見てから、また可能な限り中学校まで広げられるように努力をしていきたいと思っています。

それから、町道の維持修繕でありますけれども、これはたいへん高齢化が進んで本当に町道の草刈り、今のところ全部在所の人にやってもらってますけれども、なかな

かそれもしないような状態になってくると思います。現在でも5名の方に、そういう要望があればすぐ行っていただいて、いろんな町道等、あるいは側溝の泥上げ等々を行わせていただいております。これからは緊急雇用の人を使って、そういった要望のあるところについては出かけていきたいと思っています。

それから、つなぎ資金については、今の社会福祉協議会で行っていますので、それも柔軟に対応していきたいと思っています。

それから、今、銃の補助ですけど、私も知事の答弁、読ませていただきました。知事ももう少し何とかしなければならないということは、この前の同僚の議員の質問にもお答えしたとおり、これはもう有田川町の問題ではなくして、全国的な今、鳥獣害というのは問題になっております。全国の町村会でもよくこの問題が取り上げられます。ことしまで防護さくも県の補助金というのは2件まもらないとできなかったけれども、来年からはもう1件でも補助を出すという答弁をこの前、知事にいただいております。これも知事さんと、市町村と相談をしてやるということでありますので、知事と相談をして取り組んでいきたいと思っています。

それから、消防の定数ですけども、先ほど言った条件がありますので、それにはまるようにこれから年度設計を立ててやっていきたいなと思っています。

以上です。

○議長（前勢利夫）

産業課長、福原茂記君。

○産業課長（福原茂記）

就職の状況の中で、先日、議員さんからいただいた資料ですけども、私どもも勉強不足で、新しく国の方の新卒者に対する緊急対策ということをも十分把握していなかったわけですけども、主に和歌山の労働局の方でやられる事業というふうに認識しております。具体的には、それぞれのハローワークの方で取り組まれているというふうに聞いております。

まず、就職の相談とか紹介とか、そういったいわゆる実践で当たられる方の、これはジョブサポーターというふうな名称、これを全国的に約倍増するということで、和歌山県につきましても大卒の方をサポートするということで、大学は和歌山市に集中しておりますので、和歌山に6名と橋本に1人配置されているそうです。高卒のジョブサポーターにつきましても、和歌山に2名と、その他のハローワークに各1人配置されているとお聞きしています。

それから、内定を得られずに心理的な問題を抱える、いわゆる新卒者をサポートするということでの臨床心理士による心理的なサポートということですけども。現在、県内では未設置ということで、これは労働局の方でその仕事を受けてくれる心理士を今探しているということで、今のところまだ見つかっていないというふうに聞いております。

それから、今、いわゆる就職浪人といいますか、新卒でないととらないという企業がかなりありますので、大学に残ってというようなこともよく聞きます。これについて、卒業して３年以内の方を、これはトライアル雇用奨励金というそうですけれども、３年以内にそういう方を正規雇用に向けて、期間を限定して、原則３カ月ということですが、雇用した場合に事業主に月１０万円、３カ月で、その後、正規雇用ということになりますと５０万円支払われるこの制度については、今、県内でトライアルをされている方が３４名いるそうです。ハローワーク湯浅の管内でも５人いるというふうに聞いております。ただ、この制度についてはまだ始まったばかりということで、月１０万円という支給実績が今のところないと。今後、雇われていく中で支給されるということだそうです。

それから４番目、今までは新卒だということで規定されていた事業所が、これを３年以内の既卒者も新卒者として正規に雇用しますよという、いわゆる企業の採用方針でしょうけれども、これが転換された場合、その企業に対して正規雇用から６カ月後に事業主に１００万円が支払われるという制度もあるそうですが、これはいわゆる雇用側、これは福祉現場とか美容、理容、そういった企業が手を挙げているそうです。ただ、これは大卒を対象とした制度なんですけれども、これは今のところ県内では希望する大卒者がいない。ですから需要と供給がマッチングしていないということで、実績はないということを聞いています。

それから、短期のインターンシップ、これは原則２週間以内、最長１カ月ということで、これは体験して、その仕事が自分に合ったらまた正規雇用にということですが、これも事業主に１日３，４００円支払われるそうです。これは厚労省の関係の分が３，４００円で、経済産業省の関係で３，５００円、本人にも１日７，０００円支払われるという制度だそうです。これにつきましても、今県内ではいずれも実績がないというふうに。いずれにしてもこの制度については、まだ始まったばかりということで、今後、何らかの形で成果を上げていくんだろうと思いますが、総じて今のところ実績はないというふうに聞いております。

以上です。

（「議長、成人用肺炎球菌ワクチンのことを再度お聞きしたのですが、その答弁がなかったもので、担当課か町長かどちらか」と増谷議員、呼ぶ）

○議長（前勢利夫）

町長、中山正隆君。

○町長（中山正隆）

それも、さきにお答えさせていただいたとおり、検討させていただきます。

○議長（前勢利夫）

１番、増谷憲君の再々質問を許可いたします。

１番、増谷憲君。

○1 番（増谷 憲）

最後の質問になるわけですが、ぜひ幾つも項目を挙げておりますけれども最後にもう一度だけ、子ども医療費の分については、ぜひ中学3年生まで検討していただきたいと。実績がまだないというのであれば、小学校6年生までが9月から始まったということでもありますので、来年の9月から実施をめどに考えて、ぜひ前向きに進めていただきたいということで答弁願います。

それからもう一つ、雇用問題。若い方で地元出身者が、やっぱり地元でおられ、住んで、働いていくというシステムをつくっていかないと人口減は避けられないし、地域のまつりごとやいろんな面でも支障を来すということで大きな問題だととらえるべきだと思いますし。そういう意味では、町長はまちづくりの一環として雇用対策は大事だというふうに答弁されましたので、これはぜひ守っていただいて、本当に行政の方も個人施策というとらえ方でなくて、まちづくりの一環ということの答弁いただいたので、本当にそういう雇用対策、町が発注する事業等々へ積極的に雇うことを求めていると思いますけれども、その点でいかがかというのと。

それから、先ほど御答弁いただきました国の施策、ほとんど実績がないと。ハローワークで聞いてもそういう感じでした。だから、町もこういう事業については積極的に紹介しながら業者と詰めていって、誘致企業も含めてこういう形で当面、抜本対策ではないかもしれませんが、活用してもらえるように進めていただきたいと思いますがいかがでしょうか。本当に今景気が悪くて、町がどれだけ地元の町民のためになるかということを生懸命に考えていかないと、本当にますます町民と我々行政、議会との間が開いていくというふうに思いますので、その点しっかりと踏まえて、再度、最後の御答弁をいただきたいと思います。

○議長（前勢利夫）

町長、中山正隆君。

○町長（中山正隆）

中学校3年までの医療費の無料化、これは湯浅が来年度からすると聞いています。来年度から小学校、中学校まで無料化すると聞いています。先ほど答弁させていただいたように、ことしの9月から始めたばかりでありますので、できるだけ御要望に沿えるような方向でやっていきたいなと思います。

それから、地元雇用、もちろん一番大事なことであって、地元から若者が去るというのは、やっぱり雇用の場がない部分が多い面がありますので、今後もこの雇用対策というのか、いろんな方面から地元で雇用が生まれるような行政を進めていきたいと思います。

○議長（前勢利夫）

以上で、1番、増谷憲君の一般質問が終わりました。

ここで暫時休憩いたします。再開は10時45分からいたします。10分間の休

憩でございます。

～～～～～～～～～～～～～～～～

休憩 10時35分

再開 10時46分

～～～～～～～～～～～～～～～～

○議長（前勢利夫）

一般質問を再開いたします。

……………通告順8番 17番（亀井次男）……………

○議長（前勢利夫）

続いて、17番、亀井次男君の一般質問を許可します。

17番、亀井次男君。

○17番（亀井次男）

おはようございます。

議長の許可を得ましたので、先日の9日に通告しています一般質問を行います。

先日、町民の方が、「有田川町が誕生した当初は、生活範囲が広域に及ぶことから行政面の不安もありましたが、中山町長、議会議員、町職員の皆様方の御努力下、合併5年目を迎えた現在、道路や水道施設の整備や清水庁舎、藤並駅舎、地域交流センター、鉄道公園、金屋庁舎の着手等、施設充実に取り組まれ、現在不安がありません」とのお話でありましたが、おごることなく、時に検証し、町民の声を行政に反映すべきだと思い、次の点を質問いたします。

1点目、藤並駅の現在の乗降客数と有料・無料の車の駐車場利用数及び自転車、バイク等の駐輪場の利用状況について。

2点目として、地域交流センターアレックの利用者数及び文化財、偉人展等のイベント開催と反響について。

3点目、鉄道公園の利用状況及びいろいろなイベントを計画されているとお聞きますが、その取り組み方と反響について。

4点目のイとして、有田川町観光施設巡回バスが、運行当初は町民から不安の御意見がありましたが、現在どのような利用状況になっているのかお聞きしたいと思います。次に、町内には先人達が残された国指定の重要文化財や、多くの輩出された偉人を町内外の巡回バスの乗客の方に紹介するガイドさんを募集すると聞いておりましたが、4のロとして、巡回バス内での町内案内について、現在どのような取り組み方や構想を持っているかについて。

5点目、名勝、遺跡、史跡等への説明板や、時に国道、県道、町道、この巡回バスが通るところ及び一般車道に統一した標識を整備し設置して、町内の住民はもとより、町外、県外の広く多くの人々に知っていただき、文化財を有田川町観光の中核としてはいかがと思います。町長の御所見と担当課の取り組み方を賜りたく思い、詳細での

確な御答弁をお願いして、第1回目の質問を終わります。

○議長（前勢利夫）

町長、中山正隆君。

○町長（中山正隆）

亀井議員の質問にお答えしたいと思います。

まず第1点目、藤並駅の乗降客数と有料・無料の駐車場の利用者数というお尋ねであります。

藤並駅における乗車人数は、本年4月から10月の平均で1日当たり1,405人となっています。昨年の同時期は1,344人ということで104.5%の増加となっています。和歌山県の全体の駅の平均が前年比98%と聞いておりまして、増加率では県内トップということであります。うち特急利用者は1日当たり平均445人で、これも前年対比106%と伸びております。

また、駐車場の利用台数については、4月から11月の8カ月の累計で7,702台、うち1時間以内の無料駐車は3,475台ありました。料金収入については、207万1,400円となっています。藤並駅からの特急利用の場合の無料駐車については、4月から11月の8カ月間の累計で960台となっています。

駐輪場については、1日平均、自転車340台、単車で100台程度の利用があります。もう駐輪場も全部収容できない状態になってきております。

それから、地域交流センターアレックの利用者数及び文化財、偉人展等のイベントの開催の反響というお尋ねでありますけれども、地域交流センターアレックの利用者は累計で約18万人となっておりまして、月に約1万人の方が利用をしてくれております。当初は月6,000人ぐらいの見込みでスタートしたんですけれども、月に約1万人の方が利用をしてくれております。またアレックでは、通常営業のほか、平均して毎月1回以上のイベントを行っております。コンサートやお祭、フリーマーケット、講演会などには多くのお客さんが集まっておられ、生涯学習の場としても、また交流の場としても大いに利用され、たいへん喜ばれております。

アレックはまた、博物館機能を持っております、埋蔵文化財の常設展示を初め、アレック独自の企画展を年間8回程度行い、郷土の文化や歴史、風俗、そして郷土の偉人などを紹介するなど、町内のみならず町外の方々にも有田川町を知っていただく機会をつくっています。ホームページなどに記載することにより遠来よりの方々に観光目的にも利用していただいております、学習と集客の両立が図られています。このように、アレックでは図書館機能はもとより、さまざまな方が集まっておられる機会を数多くつくり、有田川町のランドマークとして親しまれるように企画・運営を今後も行っていきたいと思っております。

それから、巡回バスの利用状況ということでもありますけれども、巡回バスの乗車人数は、昨年の12月から本年の11月まで1年間の累計で9,401人、1日当たり

約29人となっています。運行当初は周知不足もありましたが、4月以降は平均1日34名とふえてきております。また、文化財等を紹介するガイドについては、巡回バスを検討する段階で案内ガイドを乗車させてはとの構想もありましたが、人件費を考え募集には至りませんでした。議員御指摘のとおり、有田川町には多くの文化財があり、また偉人が輩出されています。従来、これら文化的な見地からとらえられてきましたが、そうした側面を尊重しつつ観光資源としての町の活性化につながるよう、関係する方々の協力を得ながら取り組んでまいります。さらに、こうした成果については、CDやDVDを編集して、巡回バスのみならず観光PRにも活用していきたいと考えています。25年には棚田サミットも予定していますので、まずはしっかりと観光資源の土台づくりに取り組む所存であります。

それから、遺跡、史跡等への説明板や車道にも標識を整備、設置して、町内の住民はもとより広く多くの人々に知っていただき文化財を観光の中核にと思いますが、町長の御意見を賜りたいということでもありますけれども。有田川町は遺跡や文化財の宝庫であり、現在の数では国指定が23件、県指定が25件、そして町指定が151件あります。この数については、本当に県下でも非常に多い。特に有田川沿いは文化財の文化・歴史の宝庫であると言われております。説明板は現在のところ44%について設置していますけれども、今後、順次ふやしていく予定です。また、標識については、御指摘のとおり統一したものにすべたいへんわかりやすいと思われます。文化財は歴史的価値や文化的価値だけではなく、観光要素を持っていると認識しているところでもあります。道路管理の建設課、また観光担当の産業課と文化財を担当する教育委員会とで協議し、できるだけ速やかに対応できるよう検討していきたいと考えます。

それから、ちょっと参考までですけれども、温泉の利用状況、これは平成21年度です、明恵峡温泉が9万5,274人、しみず温泉が2万8,934人、二川温泉については1万9,787人となっております。鉄道公園については、担当課長に答弁をさせたいと思います。

○議長（前勢利夫）

企画財政課長、武内宣夫君。

○企画財政課長（武内宣夫）

先に申し上げたいのですが、通告書の中で担当課長と書いておられたので、私も長と相談したのですが、町長に言ってもらった方がよかったのかなと思ったのですが、そういうことになりますので、ちょっと私の方から質問に対して答えさせていただきたいと思います。

3点目の質問でございます。有田川鉄道公園の利用状況及びイベント等の取り組みについてという御質問でございました。お答えをさせていただきたいと思います。

有田川鉄道公園につきましては、12月12日時点におきまして、鉄道交流館内に有料入館をいただいた方が、大人7,886人、小学生以上でございますけれども、

子ども2, 458人、計1万344人でございます。また、優待者の方は492人
ございまして、合計いたしますと1万836人となっております。鉄道交流館につ
きましては、家族連れの方が大半を占めておりますけれども、その中で小学生以下が
無料となります。お子さんにつきましても、入館割合がすごく多いということになっ
てございます。また、県外の方やマニアの方にも親しまれておりまして、ポイントカ
ードも5回以上お越しの方が70人を超えてございます。リピーターのお客さんもふ
えているという状況でございます。

また、8月からは鉄道保存会の方が毎週土日に行ってくれておりました、1日4回
の走行運転を、第2、第4日曜日にお客さんを乗せての乗車体験走行行にかえて行っ
てもらっております。それで、お客さんの要望がございましたら、他の土日も運転して
いただいております。この乗車体験につきましても、現在1,800人以上が乗車
をいただいておりますという状況になっております。また、先週の11日、12日でご
ざいますけれども、1万人を突破したということで、記念事業といたしまして、入館し
ていただいた方に記念品を進呈し、公園にお越しの方に、あらぎの里のみそを使いま
した地元食材を使って清水産の地鶏なべをつくりまして、大勢の方に御賞味いただき、
たいへん好評でございました。

公園につきましては、今月に入っても天気のよい休日につきましては、大勢お越
しいただいているという状況でございます。11月11日には、有田振興局を通じま
してJR和歌山支社から春休みに向けての企画のための視察とか、旅行会社等15社
によります有田地域旅行エージェントツアー、こういうものを企画しまして、鉄道交
流館及び公園の利用を検討していただける会社の方々に来ていただきました。後日提
出いただいたアンケート等によりますと、「とてもよい」という回答をいただいた方
が多くありまして、ツアーの企画に今後入れていきたいというようなことも書いてく
れている会社もございましたので、今後の動きに期待いたしておるところでございま
す。

以上でございます。

○議長（前勢利夫）

17番、亀井次男君の再質問を許可いたします。

亀井次男君。

○17番（亀井次男）

ただいま当町の各施設の利用状況について、御丁寧に御説明をしていただきありが
とうございます。

特に有田川町の観光施設の巡回バス内での案内とか、また史跡等の統一した看板等
についても、順次やっていただけるということが、やっぱり観光の一つにも、文化財
にもなってくると思いますので、1日も早い設置を望むものであります。

僕、ちょっといろいろ考えるには、行政は各条例や補助目的の規制という型の中で

運営をしなければなりません。一般社会にも通念というものがあり、少しはみ出すと型破りと言いますが、概念や通念の規制を無視した言動は、形なしとか台なしとかなりますので、やっぱり町民の声にはいろいろ耳を傾けながら取り組むのでありますが、形なしになるような行政はやめていただき、きちっとした行政をお願いしたいと思います。

この際、僕から町長に観光面での提案を1点いたしたく思います。

観光と言えば、和歌山県、特に有田地方では、高野山に年間約120万人から150万人のお客さんを有田地方に来ていただく構想は当然であると思いますが、もう一つ、京阪神からマリーナシティに訪れる観光客を有田川町に来ていただくように努めるべきだと思います。関西有数の高原である生石山や次の滝、季節によりミカンの花の香りの中、また巨峰村や千葉でのブドウ狩り、ミカン狩り等をして、明恵峡温泉や二川温泉、しみず温泉あさぎり等で、ふろに入りながら食事もできて、またマリーナシティで、夏場であれば夜の花火を見て帰ると、そういうような取り組みをしてはどうかと思います。

特に有田振興局を今中心として、有田地方の観光行政に取り組んでいると思いますが、和歌山県の観光課をキャップとして、有田振興局、また海南市、紀美野町が入っている海草振興局、また和歌山大学の観光課でいろいろな、我々が気づかない点も見つけていただけるような組織を立ち上げて、マリーナシティへ来るというお客さんに対して、県が入ってくれたらマリーナシティの中でも宣伝もできると思いますので、そういう組織を立ち上げて、県内、県外、また関空を通じての外国からも誘致できますよう、そういう組織を立ち上げたらと中山町長に提案しますが、中山町長の御所見をいただきまして、2回目の質問を終わります。

○議長（前勢利夫）

町長、中山正隆君。

○町長（中山正隆）

お答えをしたいと思います。

町民の声をしっかりと聞いて行政に反映させる、ごもつともなことであります。しっかりと町民の皆さん方とも対話をしながら、進めていきたいと思っています。

それからまた、観光面での御質問がありました。現在、1市3町と振興局と、それから有田物産センター、高速にある売店です、こことがお金を出し合って、今、有田郡の広域観光をやろうということで始めてます。実は先日も、各旅行会社へあそこの支配人が回らせていただきました。その中で、1社がこの有田川町のそういった巡回するようなツアーを企画させていただいた。多分あれはサンケイ観光だったと思いますけれども、取り組んでいただけるということになっております。

それから今、亀井議員が生石山へマリーナシティからバスを上げたらどうなという、たいへんすばらしい御提案がありました。これは生石山というのも、県知事もこれは

関西の軽井沢やと。こういったススキのあるところは全国でもここしかないので、非常に大事にしていきたいという知事の考えもあって、とにかくここへは観光客が年間、シーズンになればたくさんの観光客が今来てくれておりますけれども、うちだけでというわけにはいきませんので、一遍、海南市あるいは紀美野町、県とも相談をして、その方向でできるようにこれから努力をしていきたいと思います。

○議長（前勢利夫）

17番、亀井次男君の再々質問を許可いたします。

亀井次男君。

○17番（亀井次男）

ただいまの町長の御答弁を聞いて、この提案しても心強く思います。僕はどうしても和歌山県では、高野山と龍神温泉、白浜という筋が強固な観光のルートになっていると思うんです。今、若い子ら、家族連れが日帰りでも来るのがこのマリーナシティで、高野山と匹敵するところになっている。この有田川町に両方があるので、やっぱりそういうことで県が中へ入ってもらった形の中で取り組んでいただきたい。

また、同僚議員がきのう質問であったこの次の滝のところも、424のバイパスとして吉田までできて、小川楠本線でまた拡幅も県も考えてくれている。この中で、次の滝というものも広く、先ほどの町長の取り組む中へ入れていただきたいと思って、僕は要望して質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（前勢利夫）

以上で、亀井次男君の一般質問を終わります。

……………通告順9番 12番（楠部重計）……………

○議長（前勢利夫）

続いて、12番、楠部重計君の一般質問を許可します。

12番、楠部重計君。

○12番（楠部重計）

ただいま議長のお許しをいただきましたので、一般質問を行いたいと思います。

昨日から始まりまして、きょうは2日目、いよいよ最後の一般質問になりますけれども、町長にはお疲れだと思いますけれども、どうか最後まで御答弁、明快によろしくお願いいたしたいと思います。

私は今回、2項目にわたって提案させていただきたいと思います。いずれもことしの2月に改選がありまして、議員の方々から巡回バス等につきましては何人か同僚議員も質問をされておりますけれども、再度私も一般質問を行いたいと思います。

まず、1項目目の観光巡回無料バスの運行についてでございますけれども。平成20年3月に新しくなった藤並駅舎に伴いまして、有田川町には豊富な観光資源が多くあることから、町では観光用の第2次交通手段として、国の不況対策による緊急経済特別対策及び雇用特別対策交付金事業として観光目的のバス運行事業を計画して国の

認可を受けました。平成21年11月より観光巡回バスが実施される運びとなったわけでございます。町では巡回バス2台を購入いたしまして、有田鉄道株式会社と運行委託を契約しております。Aコース、Bコース。Aコースでは、かなや明恵峡温泉行きということ、Bコースではしみず温泉方面行きの2コースで、1カ年を迎えたところでございます。お聞きしたところ、乗車数につきましては、昨年の11月からですが、今年の10月までの1年間、Aコースのかなや明恵峡温泉行き、この巡回バスを利用された方は3,533人と聞いております。それで月平均に直しますと294人であります。これを1日に直しますと9.8人で、Aコースでは5便ありますので、1日に直しますと1.9人、約2人程度でございます。それからBコースのしみず温泉行きでは4,868人、月平均にしますと405人でございます。1日平均に直しますと13.5人、ここは3便でございますので4.5人ということになります。当初からの1年間では8,401人という集計になっているようでございます。そこで、この巡回バスにつきましてお伺いをするわけなんですけれども、運行後1カ年を経過しましたけれども、観光振興を通じたまちづくりができていのでしょうか。「きらめきひろがる有田川町」への実行についてどうですか。

また2番目に、観光資源のPRの不足はないか。観光スポットは多いものの、PRはできているのか。

3番目に、観光客の誘致の手段はできておりますか。この対策について、観光巡回バスの実施はしたけれども効果はどうか。

4番目に、町民の方々の利用者の運行計画を考えてはどうか。これは町民が巡回バスを利用するものの、観光客として集計されて、たいへんいいことであると思いたくはございますけれども、もっと意見を取り入れる必要があるのではないのでしょうか。

5番目に、3カ年の運行契約を結んでいますけれども、利用効果等の協議はされておりますか。平成21年5月より平成24年3月末までの3カ年の契約として4,490万円、有田鉄道と一括契約をされておりますけれども、3年後と言わず、1年1年の見直し等も協議する必要があると思いたくはございますけれども、かつて同僚議員の一般質問等にでも検討、協議をしていくという町長からの答弁もありましたけれども、その後どういう経過をたどっているのかお聞かせいただきたいと思います。

それから6番目に、温泉半額利用シルバー証明書の交付状況はどうでしょうか。有田川町温泉半額利用シルバー証明書の交付状況についてお伺いをするものでございます。ことし5月よりシルバー入浴券として、これは5枚つづりの1,500円ということが必要ですけれども、事前に購入することによって半額で入浴できる制度を取り入れたということは、たいへんいいことだなと私も思っております。しかし、現在11月までの状況を担当課の方にお聞きいたしますと、金屋・吉備地区で既に交付申請された方は376件とお聞きしております。また、清水の方々につきましては、わずか13件。極めて申請が少ないわけでございますけれども、当然清水地区のしみず温

泉、二川温泉を利用される方については、清水地区の方は以前からシルバー証明書を提示すればいいので13件ということはわかりますけれども、清水地区の方が明恵峡温泉へ入浴するのみの場合ですから、少ないということはわかりますけれども、今現況の吉備地区の人口にしますと1万5,364人、これに対しまして65歳以上の対象者の方は3,200人余りでございまして、20.8%ぐらい。金屋地区の人口は8,924人に対して老人の方が2,955人、合わせて吉備・金屋地区で6,156人の対象者がこの65歳以上の入浴半額利用交付申請をできるのでございますけれども、300件余りということはたいへん少ないわけでございますけれども、これにつきましては、交付申請をもう少し簡単にすることもいかなものかと。

当初、シルバー券の発行をするに当たりましては、温泉へ行っても発行できるのではないかなというふうに私は思っていたんですけれども、温泉で受け付けもしておりません。現在、吉備の方にしますと、金屋へ行っても申請して発行券をもらって、行きたかったら吉備庁舎で入浴券を買わなければならないということですが、交付手続は、吉備の町民の方にとっては吉備庁舎でもできるようにしたいかなものかなと思います。余りにも私は申請が少ないので、区や老人クラブのそういった総会等々で、一度そういった交付の説明、あるいはそういった状況等も一遍支援をしてもらうようにしたら、もっと入浴がふえるのではないかなというふうに思いますけれども、町長の御見解をお聞きいたしたいと思います。

それから、2項目目でございますけれども、来年度の平成23年度、保育所の入所申し込みの状況はどうかについてでございます。昨日の一般質問にも同僚議員から質問もございましたけれども、ことは特に1歳から2歳児につきましては、吉備地区では15名、また金屋地区では10名というようにオーバーするについては、町長からの答弁では、できるだけ希望者に沿うように保母さんを3名なり増員してでも、この希望者にこたえていきたいという答弁がございましたけれども。実質的に藤並保育所で定数が270名、田殿で80名、御霊で110名、きび中央保育所で50名、計510人。金屋地区では第一、第二、第三、計195名に対して来年度の入所申し込みの状況はどのようなものでございましょうか。特に1歳から2歳児が多いようでございますけれども、オーバーするところは、本当に希望者のとおり入所できるのかどうか、再度伺っておきたいと思います。

特に町では、平成23年度より保育子育て支援事業の教育委員会の移管ということで、案も委員会の方で話を聞いております。来年の4月に機構改革を行い、福祉課から教育委員会へ業務を移管するという点につきまして、子育て支援事業の充実のための6事業、また保育サービスの充実についての6事業の移管、学校教育課に新たに担当をする係を設け、学校教育課の名称も子ども教育課に改称をするような予定だと聞いておりますけれども、これはことし9月に計画案を立て、進めているというような報告も聞いておりますけれども、この点について本当に来年4月から機構改革、移管

について、どのように進まれているのかお聞かせいただきたいと思います。

私は、保育所の来年度の申し込みについて説明もしておりますので、清水の件につきましても、一応この議会の場で町長から御答弁をいただけたらと思いますけれども、久野原へき地保育所が募集をことしで取りやめて、清水の保育所に合同保育するということで、来年度は休所するということでございますけれども、その後、現状の保育料とへき地の保育料、通園補助金につきましてはどのようになっているのでございましょうか、お伺いをいたして、第1回目の一般質問を終わりたいと思います。

以上でございますので、よろしくお願いいたします。

○議長（前勢利夫）

町長、中山正隆君。

○町長（中山正隆）

楠部議員にお答えをしたいと思います。

まず、観光巡回無料バスの運行についてであります。

この有田川町のみならず、中紀地方の観光は、白浜などの南紀地方や高野山といった主要観光地の中で苦戦しているのが実情であります。最近の観光客に対するアンケートでも、有田といえばミカンということで、観光地の認知度は非常に低いようであります。したがって、観光振興を通じたまちづくり、観光資源のPRということでは、まだまだ道半ばだと言わざるを得ません。

しかし、さきの質問でもお答えしたとおり、藤並駅の乗車人数は、特急利用を含め県内ではトップの伸び率となっていますし、高速道路の4車線化も来年度の5月末ごろには完成するようであります。観光面での環境づくりについても徐々に整いつつあると思います。観光PRについては、事あるごとに努めておりまして、今月の3日にも担当課が大阪千里駅前で商工会やふるさと開発公社も参加いただきまして、ミカンの消費拡大を兼ねたPRも行っていました。また、10月には、どんどんまつりの会場に和歌山放送のサテライトスタジオを設置し、巡回バスや観光地、文化財、地域の食材などの情報発信を行いました。同じく10月に県の町村会で観光に主眼を置いたホームページを立ち上げ、21町村のトップを切って有田川町の観光全般を紹介しています。有田地方としての連携した取り組みも重要であり、6月、11月には大阪周辺の旅行代理店や旅行出版社を招いたエージェントツアーを行い、多くの参加をいただきました。吉備湯浅パーキングエリア内における共同キャンペーンも行っています。今後も平成25年度の棚田サミットを一つの目標に掲げて、観光客を誘致できるまちづくりに取り組んでいきたいと考えます。

それから、観光巡回無料バスの運行についてでありますけれども、観光巡回バスは駅から観光地を結ぶ二次交通として、あくまで路線バスではカバーできない観光客誘致を目的に運行しているものであります。町民の方々から、例えば買い物とか日常の交通手段として利用できないかとの要望もあることは承知しておりますけれども、無償

で観光客送迎ということで、いわゆる営業としての許可はとっておりません。現状は、他の交通機関との協議の上でありますので、一般的な利用については今後も慎重に対処をしなければならないと考えています。利用効果等の協議については、本年7月に運行を委託している有田鉄道及び各停車地の代表の方々にお集まりいただきまして、第1回の検討会を持っています。乗車客のアンケートにもありますが、各施設からも巡回バスの融通性について提起されたようです。途中、あらぎ島や土産を買う場合などの停車時間がもっと欲しいとの要望がある一方で、しみず温泉を目的とする方からは、停留所が多く、清水までの時間がかかり過ぎるとの声もあります。1年間の利用実績を踏まえ、今後、運行内容の検討もしてまいりたいと思います。

それから、シルバー証明書発行は、現時点では400枚ほどであります。また、明恵峡温泉の利用については、8月から11月までの4カ月で884人となっていますが、毎月平均50人余りふえており、11月は294人でした。65歳以上の有田川町民であることを証明するシルバー証明書については、現在、吉備、金屋の方は金屋庁舎で、清水の方は清水行政局で発行しています。交付に当たってはスムーズにお渡しできるよう、あらかじめ対象者全員を住民基本台帳データからプリントして、ビニール袋で被覆したものを用意しております。申請については、住所、氏名等を記入していただくだけで、代理でも結構ですので、それほど難しいとは思っておりません。また、明恵峡温泉については、入浴券を御利用いただきますので3庁舎で購入いただくことになります。交付手続については、今後も利用者の声を考慮し、できる限り簡単にしたいと思います。65歳以上の町民の方への福祉施策として行っておりますので、御理解をお願いしたいと思います。

それから、保育所の入所申し込みはどうかということでもありますけれども。全体の申し込み人数は昨年と比べて、吉備地区においては2歳児が15名、金屋地区においては1、2歳児で10名の増加の状況でございます。これも同僚議員にお答えさせていただいたとおり、私個人としてはできるだけ3歳児ぐらいまでは手元で育ててほしいという強い要望がありますけれども、やっぱり子育て支援とかいろんな関係で、これはどうしてもやっていかなければならないということで、待機児童が出ないように保母さんをふやして対処していきたいと思います。

○議長（前勢利夫）

清水行政局長、保田永一郎君。

○清水行政局長（保田永一郎）

長の補足答弁をさせていただきます。

今の楠部議員の質問の中で、清水地域の久野原へき地保育所の来年度からの休所についての御質問がございました。この件については、以前から保護者の方々、それから地元の区関係者の方々からいろんな思いがあったわけです。ここに至って、現在では園児が4名、来年からどうかというと、2名とかになってきます。そんな中で、保

護者の方は休園することによって地元の活性化が逆方向へ行くのではないか、そんな思いもあって気を使っていた部分もございました。区長さんを初め全保護者、保護者といひましても4名です、それで夏だったか、2回ほど私も入って寄りました。その中で、もう仕方ない、清水へ行こうかということになりました。後の助成といったら何ですけども、実はもっと奥の安諦へき地保育所がございまして、そこはもう既に休所して、今、清水へ行っています、それと合わせた内容で支援をしていきたいと考えております。

以上です。

(「各保育所の申し込み状況はどうですか。保育所の申し込みの状況を10月にとってますけど、そのあれはどうですか」と楠部議員、呼ぶ)

(「資料をつくってますので、ちょっと配付します」と福祉課長、呼ぶ)

○議長(前勢利夫)

資料を配付してください。

——配付すると言っています。配付してください、資料を。きちっとわかるように、先。

[資料配付]

○議長(前勢利夫)

それでは、担当課長、大方肇君より、資料に基づきまして補足答弁をいたさせます。

○福祉課長(大方 肇)

補足説明をさせていただきます。

今、資料をお配りさせてもらった中で説明させていただきます。

上の表は23年度です。ことしの分です。藤並保育所は、本年度においての申し込みは計284名です。内訳は、ゼロ歳児10名、1歳児17名、2歳児42名、3歳児63名、それから4歳児78名、5歳児74名です。田殿保育所については、2歳児13名、3歳児29名、4歳児19名、5歳児21名、計82名です。御霊保育所につきましては、3歳児43名、4歳児25名、5歳児35名、計103名です。きび中央保育所におきましては、ゼロ歳児5名、1歳児14名、2歳児18名、計37名でございます。それで、旧吉備町の合計につきましては、昨年度533名から全体としては506名で、少し減っている状況でございます。

金屋第一保育所におきましては、1歳児11名、2歳児12名、3歳児20名、4歳児28名、5歳児32名で計103名です。それから、金屋第二保育所におきましては、ゼロ歳児2名、1歳児2名、2歳児7名、3歳児5名、4歳児10名、5歳児13名、計39名でございます。金屋第三保育所におきましては、ゼロ歳児2名、1歳児10名、2歳児4名、3歳児7名、4歳児17名、5歳児8名で、計48名でございます、合計190名。去年の申し込み状況は186名でございますので、全体では4名増です。

続きまして、清水保育所におきましては、2歳児8名、3歳児10名、4歳児15名、5歳児8名、計41名です。清水町におきましては、昨年は34名でございましたので、7名の増となっております。本年度の合計は737名でございます。

以上でございます。

○議長（前勢利夫）

12番、楠部重計君の再質問を許可いたします。

楠部重計君。

○12番（楠部重計）

再質問を行いたいと思います。

まず1点目の巡回バスについてでございますけれども。当初、有田川町への入り込み客数につきましては、たいへん観光地も多くて、一時は平成15年には90万人にも達するようがありました。観光客入り込み数の動向なんですけれども、平成10年度は吉備で10万8,000人、金屋で34万3,000人、清水で36万2,000人、計81万4,000人の入り込み動向でございました。以後、平成15年には90万人に達して、平成20年では17万人ぐらい減っております。そのうち宿泊は、平成10年の5万8,000人に比べまして、現在では2万9,580人ぐらいに減ってきておることも事実でございます。私は、明恵峡温泉とほんの5分もかからないようなところでございますので、巡回バス、余り利用することが少ないんでございますけれども。もちろんくろしおが藤並駅に停車することになって、こういったことはたいへんすばらしいことでございますけれども、先ほど私が一般質問したように、1日の巡回バスを利用している方がたいへん少ないわけなんです。同僚議員からも再三、定例会ごとにもっと協議をしたらどうなんと、3年結んでおっても、やっぱり3年後はどうなるんやとか、1年ぐらいで見直しも必要ではないかという質問もございましたが、町長はそういうことも前向きに取り組むということでございますけれども。

このAコース、かなや明恵峡温泉行きにつきましては5便あるわけなんです。それから、しみず温泉方面行き、最終清水スポーツパークまでの行きなんですけれども、町民の方が乗られても、一応観光客として今、藤並駅から乗る方と、それから町民の方が途中のアレックから、あるいは道の駅から乗るのも観光客としてそれは人数に入っていると思いますけれども。もう少し町民の方の意見、僕ら、町長もそうやと思うけど、ことし2月に選挙して、いろんな御意見を賜っておると思うんです。私も余り清水を利用することがないんですけれども、たまたま運転手さんにお話も聞き、乗ってしみず温泉へ行くということで時間帯を見ました。このBコースのしみず温泉行き、第1便が8時40分に藤並駅、これは特急の関係上そのようにしているんだと思います。それから、しみず温泉へ着くのが、約1時間ちょっとかかって9時53分には行けるわけなんです。ところが、当然、その清水へとまられた方が、帰りの予定もあ

るかもしれませんが、8時40分に藤並を出て明恵ふるさと館に寄るのが9時2分なんです。そうすると、しみず温泉は10時10分に着くんです。そうすると、平日は12時しか温泉が開いてないわけ、12時から。それから2時間待たされるわけです。ここら辺がもう少し、当然帰りの方のあれもあると思いますけれども、2時間も待って、温泉はまだ開いてないし、やっぱり一般客にすれば当然、自分でそのバスに乗っていくということで、あそこで2時間も寒い中を待たされると思う。それはタクシーに乗ったらいいかもわかりませんが、それだけやっぱり観光ルートというのはもう少ししっかりせんと、だんだん少なくなると、私はまだ危惧するぐらいでございます、2時間も待たんなんというようなことは。土日は11時かなんかには開いてるらしいけど、これはやっぱりもう少し協議する必要があるのではないかと。当初は3名か何かの運転手さんが交代でやっておりましたけれども、運転手さん自身もほとんど空で運転をしている方が多いわけなんですけども。

先般も運転手さんの話を聞いたら、2時間も待たんなんと。たまたま平日に行っただと。もう2時間も待たんなので昼食をとらなんでしょうその辺を歩いたんです。赤玉へ前に行ったことがあるので行っただと。ところが、水曜日は赤玉は定休日だったらしいです。もう怒って帰ったらしいのですけども。やっぱりそこら辺の時間帯を考えたらどうかなと思うんですけれども。町内の方々について、その時間帯へこれを組み合わせさせていったら、朝の便ぐらいしかないようになってくる。昼からの便で行くと、9時57分で乗ったら、1時間かかって11時ごろになったら、藤並駅から9時40分、それから11時45分、3時35分の3便あるわけなんですけど、3時に乗っていったら、4時52分で、もう温泉へ行く暇もないし、そのもう一つ前だと1時間しかない。1時間で早く行ってあれしたら、ぎりぎりできるかもしれんけれども。そういうことも一つの乗降の少ないのが原因になっていくのではないかと、そこら辺をもう少し考えたらどうかなと。町民の方に言うとしても、そこら辺をもっと考えなかったら、時間帯にちょっと無理があるんじゃないかなと。せつかく行くんですから、ゆっくり行ったらいいのですけども、なかなかこの3便の時間帯を見ますと、特急ばかりのあれになってしまうのではないかなというふうに感じますので、一遍検討を。これは町だけではいきません、相手と委託してますのでいかにと思いますけれども、その辺を一遍検討してみたらどうかと御提言をしたいのですけれども、町長の見解をお願いしたいと思います。

それから、何点か巡回バスについて御提言させていただきましたけれども、幾ら100%緊急雇用経済対策補助をもらっても、町民から見ればやっぱりある程度22人乗れるバスへ1人、2人では、見た目が余りいいことないので、幾ら国から補助を3年間という、そういう期限つきかもしれませんが、乗ってこそ初めて生かされるわけでございますので、いくら国税だからただといっても、同じ町の税金、町民から国へも納めてるんですから、同じことだというふうに感じます。

それから、保育の関係ですけれども、久野原へき地保育所につきましては、来年から休所するという事でございます。先ほどから定数の件、ちょっと条例を見てみますと、直接見ると関係ないですけども、ことしの22年4月1日から定数が削減されて低減したわけなんですね。例えばうちの第三保育所やったら60人の定数が今50人になって施行された。この中で条例というのを調べてみましたら、定数が保育所では750人。22年4月1日に施行されて、定数がことし削減されたわけよ。そして、へき地保育所を見てみますと、合併時が18年1月1日ですので、岩倉保育所も載ってるんですけども、既にもう10園、廃園措置してますけれども、そこら辺、福祉課長、これどうなっているのかな。22年4月1日にこの条例改正をやって、定数を削減したときにへき地保育所の岩倉保育所はそのままになってますね。粟生へき地保育所は40人、岩倉保育所は30人、二川へき地保育所は40人、有田川町久野原保育所は35人ですけども、来年から休所措置ということでございますけれども。これ何でそのときにしなかったのか、ちょっと担当課長にもお伺いしておきたいと思います。

それから、先ほど申し上げましたように、子育て支援の充実ということで福祉課から教育委員会への支援施策の移管ということについて、案として私、お話を聞いておりますけれども、その後どのようになったのかということについて再度御説明いただきたいと思います。

また、保育所につきましては、それぞれ定数に対する申し込み状況を聞きましたけれども、先ほど吉備の2歳児が15名オーバー、金屋1歳から2歳で10名オーバーということで、できるだけ希望に沿ってやりたいということでございますけれども。この保育の実施に関する条例を見ます中に、第2条に「保育の実施は、児童の保護者のいずれかが次の各号のいずれかに該当することにより、当該児童を保育することができないと認められる場合であって」とかいろいろ書いてますけれども、その中の3番目の中に、「妊娠中であるか又は出産後間がないこと」というこういう入所の申し込みがあった場合は、これはどうなるのかなということです。そこら辺、ひとつ担当課の方で御説明をお願いいたしたいと思います。

以上で再質問を終わります。

○議長（前勢利夫）

町長、中山正隆君。

○町長（中山正隆）

無料の観光バスの件でありますけれども、これからも乗っていただけるように、いろんなイベントもやっていきたいと思います。1個の例ですけれども、さくらまつりとか御田の舞とか、ああいうことがあればもう満席になるという状態が続いてますし、ブドウ園にもシーズンに限り応募していただいて、何回かあそこへとめさせてもらった経緯があります。

それから、1番で行ったら2時間、間があるのと違うかという話でありますけれども、何もこれ温泉客ばかりと違って、秋はあさぎりからも紅葉ツアーにバスも出るようにしてますし、温泉だけが目的で行く人ばかりと違って、朝から行ってゆっくりあらぎ島のあたりを散策するというお客さんもたくさんあります。そういった方には、朝の時間に着かなくてはならないかなと思ってます。今後もできるだけいろんなイベントをして、皆さん方に来ていただけるようにこれからもやっていきたいなと思います。

○議長（前勢利夫）

福祉課長、大方肇君。

○福祉課長（大方 肇）

補足説明をさせていただきます。

妊娠、出産ということでございますけれども、出産予定日の前後1カ月については、保育に欠けるということで、基準としては保育所へ入所していただけるという形になっております。

○議長（前勢利夫）

教育長、楠木茂君。

○教育長（楠木 茂）

楠部議員にお答えをいたしたいと思います。

合併を機に18年度から教育委員会は、小中一貫といたしまして中学校区一貫教育というのを進めてまいりました。そして、それを3年間進めてまいりまして、非常に保育と教育の両立を願うという要望が強うございまして、そして幼児教育も教育の方でということもありまして、21年度から学園構想というのを始めております。そして、22年度も学園構想というのを継続してまいりました。そして、23年度につきましては、この福祉課に今担当しております保育と子育て、この部分を教育委員会の方へ移管しようという話になりまして、今協議中でございます。担当課は、企画財政課ということになっております。企画財政課と今調整中でございます。

以上でございます。

（「岩倉保育所、これどうやったの。条例へ載ってるの、そのままにしてるの。質問したんであれやけども、定数削減をことししたわけなんでしょう、保育所は。定数の削減を保育所は全部やったでしょう、金屋も。藤並は別やけど。それは22年の4月1日にやったんやけど、へき地保育所の中には、それは抜かなくてもいいけども、もう既に岩倉保育所が廃園になって、ふるさと産業の物産展をやった。それはまだ今残ってるのね、どうしたことやったんかって」と楠部議員、呼ぶ）

○議長（前勢利夫）

12番、ちょっと議長の方で整理させていただきます。

保育所の条例問題については、担当課長の方から答えさせますので、私語は慎んで

いただきたいと思います。

(「私語じゃないけど、わからんさけ答弁してよ」と楠部議員、呼ぶ)

○議長(前勢利夫)

暫時休憩いたします。統一見解、きちっとした答弁をしてください。

～～～～～～～～～～～～～～～～

休憩 11時59分

再開 12時01分

～～～～～～～～～～～～～～～～

○議長(前勢利夫)

再開いたします。

福祉課長。

○福祉課長(大方 肇)

質問にお答えいたします。

前回、保育所においては定数減のみでございましたけども、岩倉保育所は条例に残っておりますということなので、早急に条例の改正をさせていただきたいと思います。

○議長(前勢利夫)

12番、楠部君。

○12番(楠部重計)

大体答えがわかりましたけど、町長、シルバーの証明書をするのに、手続の申し込みがありますけど、印鑑が要るようになってますよ。だからもっと簡単にしたらいいのではないかと。今はもう要らないのか知らないけど、当時は代理人の委任状までつけて、またシルバー割引券を利用するについては、5枚つづりのあれを買わなあかんわけやろ。だからそこらあたり、もっと簡単にするようにしたらどうですか。もっと利用者もふえるんじゃないかと。高齢化率は28から30%になってきているような状況の中で、先ほど言った6,000人からあるわけやろ。それがたった400人近くしか申し込みをされてない。しかも吉備の町民の方々は金屋へ行って、それで吉備でその入浴券を買わなん。そんなことを、やっぱりこの議員の中でも知らん人も、先ほど話の中で何名かありましたけど、そういうことを踏まえますと、僕は初めから温泉へ行ったらそういったシルバーの方がそんな手続できるのかというふうに思ってたんです。もう少しそこら辺をもっと簡略にしたらいいのではないかと。もともとこれも初めからしたわけではないわけでしょう。議会から、半額券をしたらどうなんと、それでその期待に町も応じてくれたと。しかし、その手続はもっと簡略にせんと、減らした理由がないんじゃないかと、そういうことを申し上げておきます。

答弁、どうですか。

○議長(前勢利夫)

答弁はもういいのですか。答弁、せないかんでしょう。

町長、中山正隆君。

○町長（中山正隆）

入浴のシルバー券については、できるだけこの庁舎にも置こうとか、簡素にできないかと、あらゆる方法でここへも置くように検討します。

○議長（前勢利夫）

以上で、楠部重計君の一般質問を終わります。

以上で一般質問を終わります。

この際、執行部にあえて申し上げておきます。資料配付につきましては、12番議員が手を挙げていただいたの発言でございましたので取り上げさせていただきました。12番議員の申し上げるとおりでございまして、これは一般質問については必ず通告を出し、それぞれの項目をきちっと議員が提出しているものでございます。資料が必要な場合は、事前に議会事務局、議長を通じてその手配をやっておいていただきたい。その席での資料配付というのは、本来であればこれは受け付けられませんが、私語の形もありましたので、私もそれはわかっておったんでございますが、あえてこの際だけ資料を配付させていただきましたが。この点について重々今後御注意をしていただくことをお願い申し上げておきたいと思います。

……………日程第2 議案第147号……………

○議長（前勢利夫）

日程第2、議案第147号、平成22年度有田川町一般会計補正予算第7号を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長、中山正隆君。

○町長（中山正隆）

それでは、追加議案の提案理由の説明をさせていただきます。

ただいま追加上程された、議案第147号の提案理由を説明申し上げます。

議案第147号は、平成22年度有田川町一般会計補正予算第7号であります。

今回の補正の主なものは、11款災害復旧費の公共土木施設災害復旧費に、工事請負費として4,563万円を補正し、補正後の予算総額は159億3,856万2,000円と相なりました。

なお、補正額の財源といたしましては、国庫支出金及び町債を充てることとしております。

以上で追加議案に対する私の説明を終わります。何とぞ御審議の上、御賛同賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（前勢利夫）

以上、町長の提案理由の説明が終わりました。

続きまして、補足説明はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前勢利夫）

ないようですので、提案理由の説明を終わります。

お諮りします。

日程第２、議案第１４７号は、提案理由の説明だけにとどめ、議案調査のため審議を中止したいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前勢利夫）

異議なしと認めます。

本日の会議は、これで延会にしたいと思います。

なお、次回の本会議は１２月２１日、火曜日、午前９時３０分から開議いたします。

～～～～～～～～～～～～～～～～

延会　１２時０８分